

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

当校では、平成24年7月のユネスコスクール認定を契機に、持続可能な地域づくり活動を、E S Dとして教育課程に位置付け、生徒会における観光・伝統文化・環境美化花育の地域貢献活動を中心として、総合学習では防災、観光、まちづくり、国際理解の学習に取り組んでいます。

I 生徒会による地域貢献活動の展開

1 観光ガイド委員会による観光ボランティア活動

地域にある国際コンベンション施設「朱鷺メッセ」展望室や新潟日報メディアシップで中学生による観光ボランティアガイド活動を展開しています。生徒会に「観光ガイド委員会」を創設し、全校生徒誰もが参加できる地域ボランティア活動として、今年度は28名が、年間を通じて活動しました。伝統の食文化の紹介、国際理解などのE S D教育を進めています。委員は地域の方から新潟のまちのよさを学びながらガイドの技術を身に付け、この地を訪れる県内外、国内外の多くの観光客に、朱鷺メッセでのパノラマガイドを通じて、新潟のすばらしさを紹介しています。

2 万代太鼓委員会による伝統文化まちづくり活動

新潟まつりのイベントとして、新潟駅前広場にて『ふれ太鼓』、『新潟まつりキラキラパレード』に参加しています。たくさんの方から温かい拍手と応援をいただきました。

3 委員会・部活動による環境美化・花育まちづくり活動

新潟まつりに訪れる皆さんにきれいな新潟を見ていただけるようにと、地域のクリーン作戦に参加しています。生徒会では清掃美化委員会が中心となり年間5回、学区のクリーン作戦を行っています。また、地域のお祭りの際には、地域の方と協働し、部活動の生徒を中心に約90名の生徒が清掃活動に参加しました。清掃活動の意義は、「心が満足する」ことだということを、クリーン作戦をとおして、子どもたちが自然に理解してほしいと思います。

春と秋の年2回、新潟のまちの中心部を花でいっぱいにしようという運動に取り組んでいます。秋の花いっぱい運動では、1年生がプランターにパンジーとビオラ、チューリップの球根を植えました。現在はパンジーとビオラが、春にはチューリップが目を楽しませてくれます。

II 総合学習における防災教育

信濃川の河口に位置し、海拔70センチの当校にとって、防災は大きなテーマです。そこで総合学習で防災学習に取り組んでいます。地震や津波などの自然災害から「自分や家族など、人の命を守るため」「被害を最小限度にとどめるため」などの知識を学び、9月にフィールドワークを行いました。防災の視点で自分の住む地域を見直してみたとき、有事は無事の備えにあることに気づいていきます。いざというときの備えを日頃から考えておくということが大事だということに気づくと、次は災害に強い「街づくり」をどう進めるかということが新たな課題として見えてきます。現在、新潟のまちをよりよいまちにするために、課題を解

決する方策を考え、いくつかの提案をまとめています。実際に役立つ提案にするには、課題を解決するために調査した内容がしっかりしていなければ、現実合う提案が難しいことを実感している生徒も多いようです。この新潟地域学習で学んだことを踏まえて、来年4月に関西で行う修学旅行の班別自主研修において、自分たちの住む新潟を一層よりよいまちにするための調査活動を実行していきたいと考えております。

非常時に強くあるためには、日常の中で高齢者や弱者に優しい街であるか、孤立しない交通網はどうすればいいのか、農業特区としてのふるさと新潟、観光資源としてのふるさと新潟、地元の企業は…。様々な視点から日常のふるさと新潟の街づくりを考える活動へとつながっていきます。ふるさと新潟の現状を知り、「よりよいふるさとにするにはどうすればよいのだろう」と考える学習へと引き継いでいきます。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()